

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

熊本県芦北町

○学校名

芦北町立佐敷中学校

○学校のURL

<http://jh.higo.ed.jp/sashikijhs/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各2学級、【特別支援学級】3学級、【合計】9学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】172人（平成27年11月10日現在）
（内訳：1年生49人、2年生65人、3年生58人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成26・27年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「友情と信頼で結ばれ、豊かな心を持ち、自ら学ぶ生徒の育成」
～自信に満ちた生徒の笑顔を指標に～

【人権教育に関する目標】

- ・ すべての教育活動にわたって、指導の充実を図り、人間尊重の精神を育てる。
- ・ 一人一人が日常生活の中のあらゆることに対して人権尊重の視点に立って考え、行動できるような社会を実現するための人権教育の推進を図る。
- ・ 同和問題や水俣病をめぐる人権等の重要課題について学習することを通して、日常生活における差別を見抜き、真の自己変容を目指す。

○人権教育に係る取組一口メモ

人権教育の視点に立った学校づくりを通して、自他を大切にできる心情や態度を育み、進んで実践、発信できる生徒の育成を目指した実践

○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】進んで実践、発信し、自他を大切にすることができる生徒の育成

～「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を連動させた取組を通して～

本校では、生徒の実態から見える課題や家庭・地域の願いを踏まえて、互いを「つなぐ」ことで人権尊重の視点に立った学校づくりを行ってきた。これを具現化するために、「人権が尊重される学習活動づくり」「人権が尊重される人間関係

づくり」「人権が尊重される環境づくり」の3つの視点を持ち、相互に連動させながら、総合的に人権教育を推進してきた。研究の効果は、「充実した学校生活を送るためのアンケート」や「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」等により評価を行った。

3. 特色ある実践事例の内容

1 本校における人権教育を通じて育てたい資質・能力とその具体化

「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」には、「人権教育は、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として、意識、態度、実践的な行動力など様々な能力を育成し、発展させることを目指す総合的な教育である」と示されている。

そこで本校では、[第三次とりまとめ]を参考に、人権教育を通じて育てたい資質・能力とともに、生徒の実態を考慮し、「具体的な生徒の姿」を設定した。すべての教育活動において、取組の連動を意識して総合的に人権教育に取り組んでいる。

側面	[第三次とりまとめ]から		
	資質・能力	は本年度の重点目標 具体的な生徒の姿(伸ばしたい力と心)	
① 知識的側面	ア 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解	人権尊重の概念がわかる。	個性を尊重し、認め合い、支え合うことの大切さがわかる。
	イ 人権の発展・人権侵害に関する歴史や現状に関する知識	人権の諸問題に関する知識がわかる。	水俣病をはじめ、様々な差別の歴史を理解し、人権に関する現状や法令などがわかる。
	ウ 憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識		
	エ 自尊感情・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識	人権課題の解決に関する知識がわかる。	いじめや差別の解消のために、どのように行動すればよいかわかる。
② 価値的・態度的側面	ア 人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚	自分や他人のよさを認め合おうとする。	自分と他人の考えを尊重しながら、さまざまな課題解決について協同して解決しようとする。
	イ 自己についての肯定的態度		
	ウ 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度		
	エ 多様性に対する開かれた心と肯定的態度	理想を目指し、主体的に社会を向上させようとする。	さまざまな立場の人の思いを受け止めて、差別に負けない気持ちを持ち、学校生活や地域社会をよりよくしていこうとする。
	オ 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度		
	カ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度		
キ 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度			
ク 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度			
③ 技能的側面	ア 人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能	お互いの違いを認め、尊重できる。	自分と違った考えをしっかりと聞き、人のよさを認めることができる。
	イ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性	豊かな感性で、他者のことに共感できる。	人が発言するときに、どのような思いか、相手の立場に立って考えることができる。
	ウ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能	能動的に傾聴し、思いや考えを伝え合うことができる。	相手意識を持って伝え、受容的な態度で聞き、学び合いができる。
	エ 他の人と対等で豊かな関係を築くことができる社会的技能	相手の立場に立って考え、行動することができる。	相手の立場に立って、意見や考えを伝え合うことができる。
	オ 人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能	様々な差別や偏見を見抜くことができる。	差別や偏見に対して差別であることを根拠をもとにはっきりと述べることができる。
	カ 対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能	協力的な話し合いによって問題を解決できる。	前向きな意見を出し合い続け合うことで、高め合うことができる。
	キ 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 等	複数の情報を科学的に判断し、公平な結論に達することができる。	さまざまな意見を聞き、それぞれの意見のよさを生かした結論を考えることができる。

2 「人権が尊重される学習活動づくり」の実践例

授業において、「各教科の目標」と「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の相関を図り、それぞれの授業に位置づけ、「人権が尊重される授業づくりの視点」をもって、一人一人を大切にしたい授業づくりを行えば、自尊感情が高まり、お互いを認める態度や学習意欲の向上が見られ、確かな学力と豊かな人権感覚が身につくと考え、実践を行った。

(1) 授業デザインの作成と活用

学習を深め、より確実な定着を図るためには、考えや意見の交流を通して効果的な練り合いを行っていくことが大切である。本校では、全教科で共通して取り組めるよう、生徒一人一人を大切にしたい授業デザインを作成した。

ア 個に応じた指導法

生徒一人一人の自信を高め、学習意欲を伸ばすため、一人一人を大切にしたい個に応じた指導を充実するよう各授業において次の取組を行っている。

- ① 一人一人に考えを持たせる工夫
- ② 全員の学びをそろえる工夫
- ③ 自己選択の場の設定
- ④ 間違いを大切にしたい指導
- ⑤ 発表しやすい雰囲気づくり
- ⑥ TTの効果的な活用
- ⑦ 学習支援員による支援
- ⑧ 個人差に応じた定着問題の

提示

イ 考えや意見を交流し、練り合う授業づくり

互いに支え合う集団づくりを通して、互いを認め合い、自己肯定感や自己有用感を高める指導を充実させるため、各授業において次の取組を行っている。

① 授業形態を工夫してつながりをつくる取組

- ・ペア学習
- ・グループ学習
- ・全体関わり学習

② 生徒の発言の場を工夫してつながりをつくる取組

- ・発言する生徒
- ・発言を聴く生徒
- ・授業者

(2) 授業の実際

第3学年 道徳「水俣病の患者さんの生き方から学ぶ

- ・祈りの言葉 価値項目 4-(3) 公正・公平・正義

個別の人権課題の学習として、水俣病問題に関する

人権学習を行った。事前学習（総合的な学習の時間）

では、水俣病資料館で語り部の杉本肇さんから講話を

聞き、本時では、資料をもとに水俣病の患者の方々の思いを知り、差別や偏見を許さない、よりよい社会を築いていくための行動について学習し、自分たちの行動を見つめ、よりよい活動にしようとする意欲や態度の育成につなげた。授業当日は、杉本肇さんにもゲストティーチャーとして参加していただき、生徒たちへのメッセージや参観された感想をお話しいただいた。事後の学習（学級活動）では、差別や偏見をなくすために自分たちにできることについて、具体的に考えることができた。

3 「人権が尊重される人間関係づくり」の実践例

様々な体験活動において、自他の良さや違いを認め合える交流を工夫すれば、適切なコミュニケーション能力が高まり、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育むことができると考え、実践してきた。

芦北町立佐敷中学校
生徒一人一人を大切にしたい

授業の進め方
～授業の流れを大切に、学習意欲を引き出す～

- 生徒を授業に引き込む導入
前時の復習をペア学習で行うなど、生徒が自然と授業に引き込まれていくよう工夫する。
- 「めあて」の提示
「めあて」に対応するような疑問形の「めあて」を、できるだけ生徒の声から引き出す。
- 学び合い「模範」
一人一人の生徒に確実に自分の考えを持たせられるような発問を行う。
- 学び合い「比較・交流」
出されたいくつかの意見をもとにその共通点や相違点を話し合い、学習を深める。
- 「まとめ」の確認
「めあて」からつながり、できるだけ生徒の言葉でまとめる。

生徒の発言を引き出す工夫
～生徒の声で授業をつくる～

- 生徒が「予想する」「想像する」授業
T「この資料からどんなことがわかるかな？」
T「このあとどう変化していくだろう？」
T「気づいたこと、感じたこと、考えたことを書いてみよう。」
- 生徒が「意見を述べ合う」授業
T「書いていることを発表しましょう。」
T「なるほど、・・・と考えたんだね。（違う方向を向いて）どう？」
T「どうしてそう考えたの？」
T「同じ（違う）考えの人はいるかな？」
- 生徒が「説明する」授業
T「考えをまとめてどうなるのかな？」
T「今日学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。」

生徒同士の間合いをつくる取組
～お互いに支え合うことで学習を深める～

- 授業形態を工夫してつながりをつくる取組
 - ①ペア学習
(取習事項の理解を確認するため)
 - ②グループ学習
(いくつかの意見をまとめるため)
 - ③全体関わり学習
(より多くの考えに触れさせるため)
- 生徒の発言の場を工夫してつながりをつくる取組
 - ①発言する生徒
・クラス全体を見渡して発言させる。
 - ②発言を聴く生徒
・発言する生徒の方に体ごと向けて聴く。
 - ③授業者
・発言を聴く生徒全体に目を向け、聴く姿勢ができていくか確認する。
・ペア学習で一人をつくらない。

板書・その他について
～常に生徒一人一人を大切に学習を深めよう～

- 板書について
 - ・精選的に整った板書を行い、基本的に1度書いたものを消してさらに書くことがないようにする。
 - ・できるだけ書く時間と聴く時間を区別する。
 - ・生徒の声をできるだけ多く取り上げた板書を行う。
 - ・重要語句は黄色で、アンダーラインや囲みは赤で書く。
 - ・教室のどの場所からも見やすい文字で書く。
 - ・正しい文字を正しい筆順で書く。
- その他について
 - ・生徒を「～君」、「～さん」付けで呼ぶ。
 - ・欠席者への配慮（机の上にプリントを置かずばなしにしない、等）を行う。
 - ・家庭学習の督促を必ず行う。



(1) 人間関係づくりのためのスキル学習の充実

ア 「心のきずなを深める生徒サミット」(人権集会)の開催と人権宣言作成

心のきずなを深める月間の取組の一つとして、すべての生徒が安心して学校生活を送れるように、いじめ・差別のない明るい学校づくりを推進するため「心のきずなを深める生徒サミット」の名称で人権集会を実施した。



イ 専門委員会による全員発表

毎月行われる生徒集会では、年間目標をもとに、各委員会から、全校生徒への啓発を含めた生徒発表を行っている。全校にわかりやすい発表となるよう、一人一役を担いながら、委員会の特色を生かした発表を心がけている。

ウ スキル学習

毎週金曜日の帰りの会の時間に、簡単なコミュニケーションをとりながらペアで活動できるスキル学習を行っている。学習をする上で、約束事をしっかりと守り行うように、全校で共通理解を図っている。

エ Good Job カード

生徒の自己肯定感を高めるために、学級の生徒同士で相手を指定し、一週間を通して観察し、良いところを発見して記入するようにしている。また、職員から生徒へのカード記入は、自己肯定感の低い生徒へ意識して記入するようにしており、職員のカードは給食時に放送で紹介するようにしている。

(2) 充実感や達成感を味わえる体験活動の推進

ア 「小中連携あいさつ運動」の実施

昨年度から、中学生が小学校に出向き、朝の登校時間に玄関先で、小学生と一緒に大きな声でさわやかなあいさつを交わす「小中連携あいさつ運動」を実施している。



イ 芦北支援学校との交流及び共同学習の実施

共に活動する中で、関わりを楽しむとともに、お互いの理解を深め合うことを目的として、6月と9月の2回、本校の1年生と芦北支援学校中学部の生徒との交流及び共同学習を行った。

ウ 小中交流会の実施

校区内の小学校3校と本校で、中学生が小学生に勉強を教える「小中交流会」を実施している。

エ 保育実習の実施

町内の幼稚園や保育園の協力を得て、3年生を対象に保育実習を行っている。事前学習では各自で絵本等を作成し、その絵本を使って園児に読み聞かせを行っている。

4 「人権が尊重される環境づくり」の実践例

教室を中心として、学校内の各場所において、生徒の声や思いを尊重し、自他の大切さが認められる環境を整備すれば、お互いを認め、大切にしようとする雰囲気醸成され、自己肯定感が高まると考え、実践した。

(1) 生徒の声、思いを大切にしたい、お互いをつなぐ環境づくり

ア 行事の振り返り（体育大会・文化祭）

体育大会や文化祭の後に、「個人として」「クラスとして」のそれぞれの視点から振り返りを行った。

イ 小中交流のお礼状の交換

校区内の小学校3校と本校で小中交流会を行い、生徒一人一人と一緒に学習した児童に、学習の思い出や感謝の気持ちを書いたお礼状を記入し、学校間で交換した。

ウ 郡市中体連大会に向けてのメッセージ交流

郡市中体連大会の前に、全校生徒でお互いに他の部活動の生徒に対して激励メッセージを書き、生徒集会で各部にまとめられたメッセージを送った。

エ 人権教育コーナーの掲示

生徒が作成した人権標語や人権作文、人権ポスターを人権教育コーナーに掲示している。

オ 誕生日紹介の放送

給食時の放送を利用して、生徒が生まれた日をお互いに大事にし、皆で祝福し合う活動として「誕生日紹介」を行っている。

カ 一人一鉢の取組

昨年12月に、芦北高校との交流と命の大切さを育むことを目的に「一人一鉢」の取組を行い、育てた花は、卒業生への感謝の気持ち、新入生への歓迎の気持ちを表すために会場に飾ることができた。



キ 職員研修の充実

水俣病関連の学習の充実を目的に、全職員参加の現地研修を実施し、水俣病資料館の見学や語り部の方の講話を聞くことで、人権に関する基本的認識を深める良い機会となった。また、[第三次とりまとめ]を活用した研修を効果的に進めるために、[第三次とりまとめ]の冊子を縮小印刷して全職員に配付し、いつでも手軽に利用できるようにした。更に職員の人権感覚を高めるために、講師を招聘して「職員の人権感覚及びケーススタディ」をテーマにした校内研修を行った。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

人権教育研究指定校の1年目の研究実践を通して、生徒アンケートの「あなたは先生からほめられたことがありますか」の項目で、ポイントが上昇した。これは、生徒の発言を受容的・共感的に受け止め、認め・ほめ・励ましたことによるものと考えられる。更に「道徳の授業ではいろいろな立場に立って考えていますか」の項目でもポイントが上昇し、人間関係づくりにおける、生徒同士のつながりをつくる取組の成果と考えられる。しかし、「学校では明るく楽しく過ごしていますか」の項目において、ポイントが下降し、人権感覚を育成する上で重要である支持的風土の醸成がまだ十分ではないと考えられ、「授業の中で自分の考えを表現していますか」の項目でもポイントが下降した。生徒同士がお互いに自分の思ったことを伝え

合うことが十分にできないことが、授業中に自分の考えに自信を持って発表できない要因の1つになっていると思われる。

そこで、2年目の研究実践では、生徒の人権意識を高める取組を継続しつつ、「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」の連動を更に意識することで、自他を大切にしている心情や態度を育み、進んで実践、発信できる生徒の育成を目指した。

5. 実践事例の実績、実施による効果

1 人権教育を通じて育てたい資質・能力に関する自己評価の推移

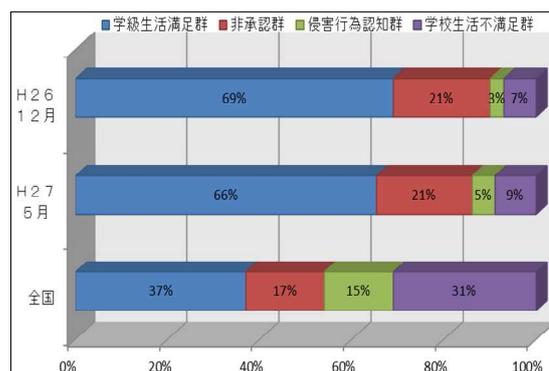
人権教育を通じて育てたい資質・能力に関する生徒の変容をつかむために、「充実した学校生活を送るためのアンケート」を平成27年3月と9月に実施した。

No.	アンケート項目(●:重点項目)	H27年3月	H27年9月	差
知識的側面	1 相手のいやがることは、どんな理由があっても行ってはならないと思っている。	95.6	97.1	1.5
	2 人権問題について、命や人権を守るために行動してきた人々の生き方を知っている。	87.7	80.4	-7.3
	3 人権の大切さについては、憲法などに示されていることを知っている。	78.9	82.4	3.5
	4 ●自分や他者の人権が侵害されたときに、どのような対処の仕方があるのかを知っている。	63.2	56.9	-6.3
	5 ●人権を守るために活動している組織や機関があることを知っている。	80.7	85.3	4.6
価値・態度的側面	6 ●他の人のよいところに学ぶことがある。	90.4	91.2	0.8
	7 ●自分のよいところを知っている。	68.4	74.5	6.1
	8 ●自分と同じように、相手のことを大切にしようとしている。	93.9	98.0	4.1
	9 ●考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってもよいと思っている。	99.1	99.0	-0.1
	10 友達同士の間で問題が起きたときに、それに向き合って話し合うようにしている。	84.2	79.4	-4.8
	11 誰かがいじめやいやがらせなどを受けているとき、それを止めるようにしている。	73.7	73.5	-0.2
	12 自分の行動を振り返ったり、自分の言ったことに責任をもつようにしている。	88.6	90.2	1.6
	13 地域や社会の活動に協力し、よりよい社会づくりに参加しようとしている。	72.8	73.5	0.7
技能的側面	14 相手の個性やよさを認めたり、相手の考えや希望などを考えて行動することができる。	92.1	94.1	2.0
	15 誰かがつらい思いをしているとき、一緒に考えることができる。	88.6	87.3	-1.3
	16 ●他の人の意見にしっかりと耳を傾けたり、逆に自分の考えを相手に伝えたりできる。	89.5	93.1	3.6
	17 他の人たちと協力して活動することができる。	94.7	94.1	-0.6
	18 差別的な行為を受けたり、うわさ話や陰口などを聞いたときに、おかしいことを指摘できる。	74.6	75.5	0.9
	19 相手と対立したとき、互いの立場を尊重して解決しようとしている。	86.8	85.3	-1.5
	20 様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、あつかうことができる。	90.4	93.1	2.7

4（よくあてはまる）又は3（ややあてはまる）と回答した生徒の割合は、20項目中12項目で増加した。「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の本年度の重点項目では、知識的側面「人権を守るために活動している組織や機関があることを知っている」で4.6ポイント、価値的・態度的側面「自分のよいところを知っている」6.1ポイント、「相手のことを大切にしている」4.1ポイント、技能的側面「他の人の意見に耳を傾ける、逆に自分の考えを相手に伝える」で3.6ポイントの上昇が見られた。

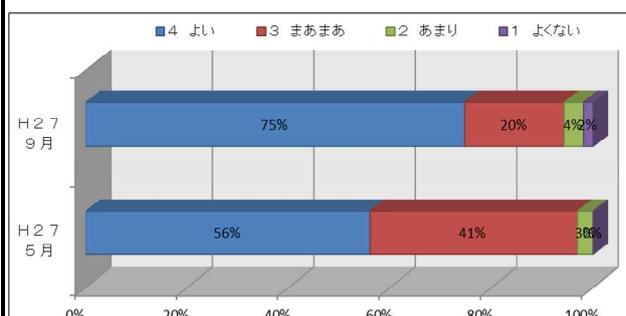
2 学級生活満足群の割合の推移(学級集団の傾向を把握するためのアンケート)

現3年生のアンケート結果を分析すると、学級生活満足群の割合は、全国平均と比べるとかなり高い。学校のリーダーとしての自己有用感の高まりとこれまでの様々な取組の成果が現れたものと考えられる。

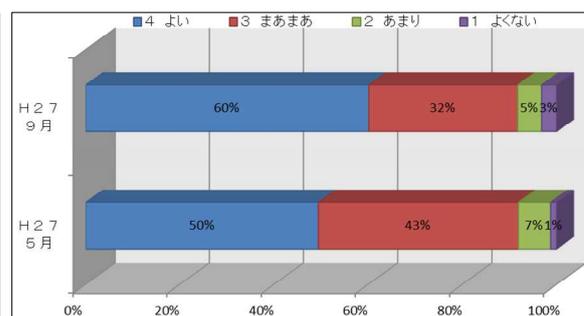


3 学級・級友に関する好感度の推移

○学級の生活は、明るく楽しい。



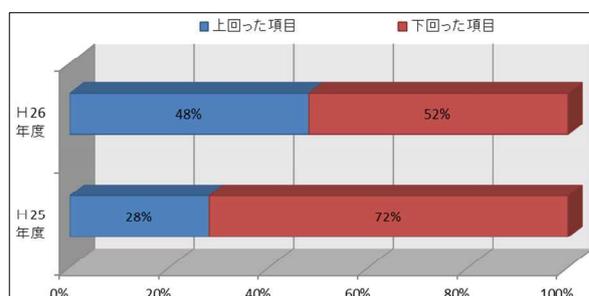
○級友とは、誰とでも仲良くしている。



どちらの項目も肯定的な回答の割合が90%を上回っている。学級での人間関係が良好であり、安心して学校生活を過ごすことができている。

4 学力の推移

平成25・26年度の「県学力調査」において、本校の平均と県の平均を比較したところ、県平均を上回った項目が約20ポイント上昇し、徐々に学力が向上してきている。



6. 実践事例についての評価

1 研究の成果 (○) と今後の課題 (▲)

(1) 「人権が尊重される学習活動づくり」について

- 「先生からほめられたことがある」生徒の割合が増加した。教師の人権感覚が高まり、生徒の良さを認めようと生徒の発言や行動を受容的・共感的に受け止めたことで、生徒の自尊感情や自己有用感が高まってきている。
- 授業中での目標（目当て）とまとめの提示、学習内容の振り返り、生徒同士の話し合い活動においては、以前よりも意欲的に行われるようになった。
- 「授業デザイン」を全職員で共通実践したことにより、生徒一人一人を大切にしている具体的な視点や手立てを共有することができ、人権教育の視点に立った授業づくりや学習活動づくりを行うことができた。
- 「学習者五か条」を意識して授業を受ける生徒が増加していることから、生徒の学習意欲の高まりを感じる。また、標準学力検査や県学力調査の結果から、徐々に学力が向上してきている。

▲ 発表しやすい雰囲気づくりや机間指導等の取組を行ったが、生徒が自信をもって自分の考えを発表できるところまでは十分に高まっていない。今後も、安心して発表できる人間関係づくり、雰囲気づくりの工夫を行っていく必要がある。

(2) 「人権が尊重される人間関係づくり」について

- 授業や行事、学校生活全体で生徒同士をつなぎ、自他の良さを認め合う機会が増えたことにより、学級中での良好な人間関係を築くことができた。

○「心のきずなを深める生徒サミット」や「人権宣言作成」などの生徒会や学級を生かしながら生徒一人一人の人権感覚を高めるための取組を行ってきたことで、目標達成に向けて努力しようとする生徒の割合が高くなった。

○生徒会テーマである「地域への発信」を生徒自身が意識したことにより、地域の清掃ボランティアや行事に参加する生徒が増えた。それに伴って、地域の方々にあいさつする生徒の割合も増加した。

▲良好な人間関係が築けているにもかかわらず、お互いに自分の思ったことを素直に伝えることが十分にできていない生徒が多いので、更に人間関係づくりのスキル学習の取組等を工夫していく必要がある。

(3)「人権が尊重される環境づくり」について

○ Good Job カードや活動後の振り返り等の自分以外の他者のいいところを認めて書いた掲示物を見ることで、自己肯定感や他者理解の高まりにつながった。

○「みんなのために」「誰かの役に立ちたい」など、自分の行動を肯定的にとらえる生徒が増加してきた。そのことが、無言清掃に時間いっぱい取り組んだり、学校行事に積極的に参加したりする生徒の増加につながった。

○「花ボランティア」や「読み聞かせ」など、地域の方々と協力して取り組む活動を継続して行うことにより、自分以外の人への感謝の心を持つなど自尊感情を高めることにつながった。

▲教室環境を始め、校舎内のいろいろな掲示物の工夫をしているが、更に自分のことも相手のことも大切にしていることが伝わるような温かみがあり、それを見ることで生徒一人一人が自分も挑戦してみようという勇気をもたらえるような掲示物を今後も考えていきたい。

(4)「連動させた取組」について

○ ○授業づくりにおける生徒の発言を引き出す工夫や生徒同士のつながりをつくる取組を継続して行ったことで、まわりを大切にしながらも自分の意見を言える生徒が少しずつ育ってきている。

○ ○人間関係づくりにおける友達の頑張りを認める取組や、環境づくりにおける生徒の思いを大切にしたい掲示等の取組を行ったことで、友達の頑張りに自分も応えたいと思える生徒が育ってきている。

4 研究全体を通して

これまでの取組により、学校生活に満足感を得たり、相手のことを考えた言動を心がけたりする生徒が増えてきた。また、職員間でも授業中や学校生活で気付いた生徒の様子について話す機会が増えた。それに伴い、生徒と教師との会話が増え、生徒をほめる機会も多くなった。このことは、すべての教育活動で「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を意識し、全職員で目標とする生徒の育成に取り組んできた結果である。特に授業においては、「生徒一人一人を大切にしたい授業デザイン」を共通して取り組んだことにより、人権が尊重される人間関係づくりを有機的につなげることができてきた。

しかし、生徒の中には、自分に自信がもてなかったり、自分の思いを伝えることが苦手であったりするところがまだまだ見受けられる。これまでの自分も他の人も大切にしたい取組を更に進め、「自信に満ちた生徒の笑顔」を目指した実践を積

んでいきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

芦北町立佐敷中学校

自他を大切にする心情や態度を育み、進んで実践・発信できる生徒の育成のために人権が尊重される「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を相互に連動させながら推進してきた事例である。生徒の実態を考慮した「人権教育を通じて育てたい資質・能力」「生徒の姿（伸ばしたい力と心）」の設定は、全教職員の意識向上につながり、すべての教育活動においての取組に生かされている。授業（学習活動）づくりにおける「授業デザイン」は、個に応じた指導法、考えや意見を交流し練り合う授業が具体的に示され、全教科で取り組める内容となっている。また、この授業づくりが効果的につながった「人間関係づくり」では、スキル学習だけでなく、学校生活のいろいろな場面での工夫がある。校種間連携の取組も効果的に作用している。「環境づくり」においても、一人一人が生かされ、存在感を与えるような工夫があり、教職員・生徒の前向きな姿勢にあふれた学校の様子が伝わってくる。